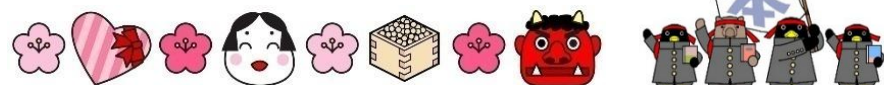




図書館だより

七尾中学校図書館

令和8年 2月号



新着本のお知らせ

☆『暗黒女子』 秋吉 理香子／著

☆『屋上の名探偵』 市川 哲也／著

☆『失せ物屋お百』 廣嶋 玲子／著

☆『失せ物屋お百 首なしの怪』 廣嶋 玲子／著

☆『優しい死神の飼い方』 知念 実希人／著

☆『崩れる脳を抱きしめて』 知念 実希人／著

☆『きみがいれば、空はただ青く』 逢優／著

☆『昼休みが終わる前に。』 高橋 恵美／著

☆『サクラサク サクラチル』 辻堂 ゆめ／著



第174回

芥川賞・直木賞受賞作決定



〈第174回芥川賞受賞作〉



『時の家』 鳥山 まこと／著

青年は描く。その家の床を、柱を、天井を、タイルを、壁を、そこに刻まれた記憶を。目を凝らせば無数の細部が浮かび、手をかざせば塗り重ねられた厚みが胸を突く。幾層にも重なる存在の名残りを愛おしむように編み上げた、新鋭による飛躍作。



『叫び』 畠山 丑雄／著

聞いて欲しい人が一人おるんです。「政と聖」（まつりごと）を描く芥川賞候補作。早野ひかるは「先生」に打ちのめされ、銅鐸と土地の来歴を学び始める。ここではかつて罂粟栽培と阿片製造が盛んで、満州に渡って「陛下への花束」を編み、紀元2600年記念万博を楽しみにしていた青年がいた。いつしか昭和と令和はつながり、封印されていた声が溢れ出す。大阪と大陸で響き合う夢とロマン、恋愛政治小説。

〈第174回直木賞受賞作〉



『カフェーの帰り道』 嶋津 輝／著

東京・上野の片隅にある、あまり流行っていない「カフェー西行」。食堂や喫茶も兼ねた近隣住民の憩いの場には、客をもてなす個性豊かな女給がいた。竹下夢二風の化粧で注目を集めるタイ子、小説修業が上手いかず焦るセイ、嘘つきだが面倒見のいい美登里を、大胆な嘘で驚かせる年上の新米・園子。彼女たちは「西行」で朗らかに働き、それぞれの道を見つけて去って行ったが…。大正から昭和にかけ、女給として働いた“百年前のわたしたちの物語”。

2月14日はバレンタインデー♡心温まる青春・恋愛小説を展示中！



『今夜、きみの声が聴こえる』いぬじゅん／著
高2の咲希は、幼馴染の奏太に思いを寄せるも、関係が壊れるのを恐れて告白できずにいた。そんな中、奏太が突然、事故で亡くなってしまう。彼の死を受け止められず苦しむ咲希は、導かれるように、祖母の形見の古いラジオをつける。すると、そこから死んだはずの奏太の声が聞こえ気づけば事故が起きる前に時間が巻き戻って一。ラスト明かされる予想外の秘密に、涙溢れる感動、再び！



『よるのばけもの』住野 よる／著
夜になると、僕は化け物になる。寝ていても、座っていても立っていても、それは深夜に突然やってくる。ある日、化け物になった僕は、忘れ物とりに夜の学校へと忍びこんだ。誰もいない、と思っていた夜の教室。だけどそこには、なぜかクラスメイトの矢野さつきがいて一。280万部超の青春小説『君の膵臓を食べたい』の著者、住野よるの三作目。



『神様の願いごと』沖田 円／著
夢もなく将来への希望もない高2の七槻千世。ある日の学校帰り、雨宿りに足を踏み入れた神社で、千世は人並外れた美しい男と出会う。彼の名は常葉。この神社の神様だという。無気力に毎日を生きる千世に、常葉は「夢が見つかるまで、この神社の仕事を手伝うこと」を命じる。その日を境に人々の喜びや悲しみに触れていく千世の日常が変わり始める。



『卒業 君がくれた言葉』蒼山 皆水、他4名／著
学校生活に悩む主人公を助けてくれた彼との卒業式を描く（『君のいない教室』蒼山皆水）、人の目が気になり遠くの学校に通う主人公が変わっていく姿を描く（『わたしの特等席』宇山佳佑）、誰とも関わりたくない主人公が屋上で災いのような彼と出会い変わっていく姿を描く（『君との四季』稲井田そう）など、卒業式という節目に葛藤しながらも前を向く姿に涙する一冊。